

入間野小学校だより5月号

令和4年4月28日(木)

狹山市北入曽980 TEL 04-2958-2718



～みんなが大切にされる学校～

校長 丸山 丁士

「**いるまの**」 「仲よくする子 考える子 やりぬく子」の育成

～君と好きな人が 百年続きますように～

梅の花にかわって3月末から入間野小を彩ってきた桜の花は、いつの間にか学童保育所の敷地の一角で薄紅色と白色の花を仲良く咲かせるハナミズキにその主役の座を譲り、「次は私たちの番」とばかりに、今やお茶の新芽やつつじの花が顔を出し始めて、春の終わりを告げています。

第一次世界大戦が始まる2年前の1912年。「日米の平和と親善の象徴として」日本がアメリカに贈ったのが、サクラ。その返礼として日本に初上陸したのが、ハナミズキです。その花言葉には、ずばり「返礼」の他に「永続性」があります。これは、ハナミズキがゆっくりと確実に育っていく姿に由来していて、西洋でも同じです。また、ゆっくりと育ち、逆境にも負けずに花を咲かせるイメージから「逆境にも耐える愛」という花言葉もあります。

「愛」。それは、昨年度の学校だよりでも何度か話題にした「助け合いの精神」を昇華させたものです。

一青窈(ひととよう)が歌う名曲『ハナミズキ』の中でも、この「愛」が歌われています。

♪君と好きな人が 百年続きますように♪

この歌詞を言葉通りに受け取るとすれば、「君と僕が」ではなく、「君と(君の)好きな人が」…続きますように…という、まさに「愛」の精神が表現されています。

今もなお深刻な人道危機に陥っている国があり、コロナ禍とも相まって、暗澹(あんたん)たる気持ちになりがちなこんな時代だからこそ「愛」の精神を大切にしながら、心の絆を深めていきたいものです。

ちなみに、当初日本に贈られたハナミズキの原木は、紅白合わせて60本でした。その後、都内の公園や植物園などに植栽されたものの、第二次世界大戦中に「敵国の贈り物」ということ

で、ほとんどが伐採されてしまいます。しかし、奇跡的に現在でも当時の原木が1本だけ残されており、東京都立園芸高校の敷地内で通常の倍近くの8メートル程の高さに成長し、毎年白い花を咲かせて平和を訴え続けているそうです。

ありがとうございました & よろしくお祈りします

PTA 総会が本日開催されました。コロナ禍ではありますが「持続可能」の観点から、会長をリーダーとした本部役員・運営委員の皆様のご工夫と熱意により実現した、実り多い総会となりました。

退任となった旧役員・委員の皆様。一年間本当にありがとうございました。おかげ様で、入間野小はイノベティブに大きく前進しました。今後とも本校の教育活動にお力添えいただけましたら幸いです。

新役員・委員になられた皆様におかれましては、本校教育活動における要役を万障お繰り合わせの上快諾下さり、心より感謝申し上げます。一年間どうぞよろしくお祈りいたします。

大型連休中のコロナ対策

最近、「前週同曜日の人数を下回る」日が続くものの、それでも昨年同時期の8倍ほどの感染者数を数える新型コロナ。

保護者の皆様のお力添えにより、本校では順調に学校生活を営むことができております。

しかし、明日から始まる大型連休での人流増加は必至。ウイズコロナ時代を見据え、正しく恐れ、正しく対処し、連休明けにはリフレッシュした元気な子供たちと再会したい…入間野小全教職員の願いです。

『ゴールデンウィーク中の感染拡大防止への協力をお願いします』(厚生労働省)

